大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業
東北大学（タイプⅠ） 取組概要

1. プログラムの概要

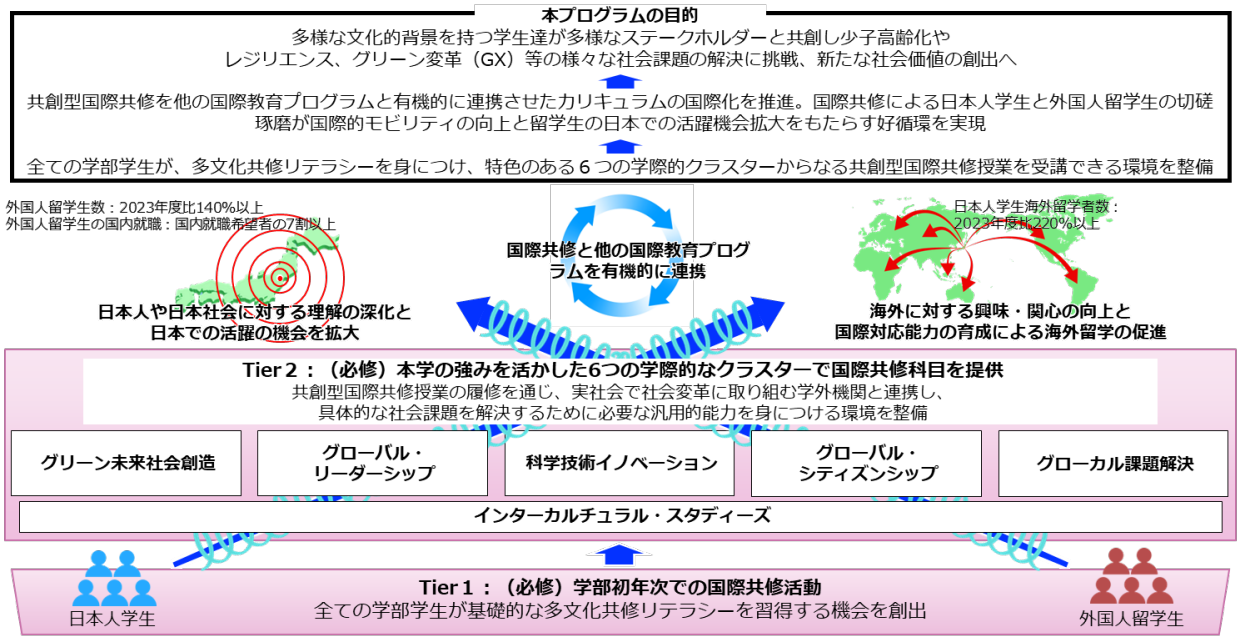
【1.名称】

共創型国際共修を核とする包括的国際化の新展開と社会価値創造

【2.取組の概要】

令和6年度に選定された「共創型国際共修を核とする包括的国際化の新展開と社会価値創造」は、全学部生が多文化共修リテラシーを習得し、社会課題解決に必要な汎用的能力を培うとともに、国際共修を他の国際プログラムと連携させ、学生の国際的モビリティ向上や外国人留学生の日本での活躍機会の拡大を図るものである。

本取組では、学習者の国際経験や関心、習熟度に応じて、二段階のカリキュラムを構築する。第1段階（Tier1）では、大学で学ぶ上での基本的な意識・態度・心構えを学ぶ必修科目「学問論」に、多文化共修セミナー、英語による留学生との国際共修活動、成果発表を取り入れ、全学生に基礎的な多文化共修リテラシーを習得させる。第2段階（Tier2）では、本学の強みを活かした「グリーン未来社会創造」や「科学技術イノベーション」など6つの学際的クラスターからなる国際共修科目を提供する。本補助事業を通じて、「多様な文化的背景や視点を持つ仲間と協働する多文化共修リテラシーを備え、グリーン変革（GX）、レジリエンスや科学技術イノベーション、グローカルな課題を含め、具体的な社会課題に対し果敢に挑戦し、社会価値創造を目指す人物」を育成する。



【3.育成する人材像】

本学の教育目標である「豊かな教養と人間性を持ち、人間・社会や自然の事象に対して『科学する心』を持って知的探究を行う行動力ある人物及びグローバルな視野に立ち多様な分野で専門性を発揮して指導的・中核的役割を果たす人物の養成」を基盤に、「多様な文化的背景や視点を持つ仲間と協働する多文化共修リテラシーを備え、グリーン変革（GX）、レジリエンスや科学技術イノベーション、グローカルな課題を含め、具体的な社会課題に対し果敢に挑戦し、社会価値創造を目指す人物」を育成する。

【4.主な取組】

①特色ある多文化共修科目について

A. 学問論（正課・必修）

【概要】入学直後の学生に国際教養力と多文化共修の基礎的リテラシーを身に付ける。異文化・自文化に対する理解を深め、多様な価値観を持つ人たちとの協働・交流を通して、批判的思考力、主体性と行動力などのグローバル・スキルを習得し、将来にわたって協働的な学修・研究を進める基礎力を培う。

B. 多文化共生社会におけるBosaiをデザインする（正課・選択必修）

【概要】英国のユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）、本学災害科学国際研究所、本学DEI推進センターと連携し、平時と有事双方の取組を考える。履修学生は、DEIの観点で自然災害発生時の支援を考察し、多文化共生社会における防災・減災に向けて、自分たちの役割を探索する力を、国際共修協働プロジェクトを通して身に付ける。

C. 社会起業家×ハーバードビジネススクール×東北大学協働プロジェクト（正課外）

【概要】ハーバードビジネススクール（HBS）、同校の卒業生が立上げたINTILAQ 東北イノベーションセンター、仙台市と連携し、震災復興と地域経済の活性化の未来を担う東北地方の社会起業家のビジネスプランに、HBSと本学の学生が国際ファシリテーターとして参画し、スタートアップ・国際共修ワークショップを行う。本学の学生にはハーバードビジネススクールより参加証明書が付与される。

②日本人学生の送出しの取組

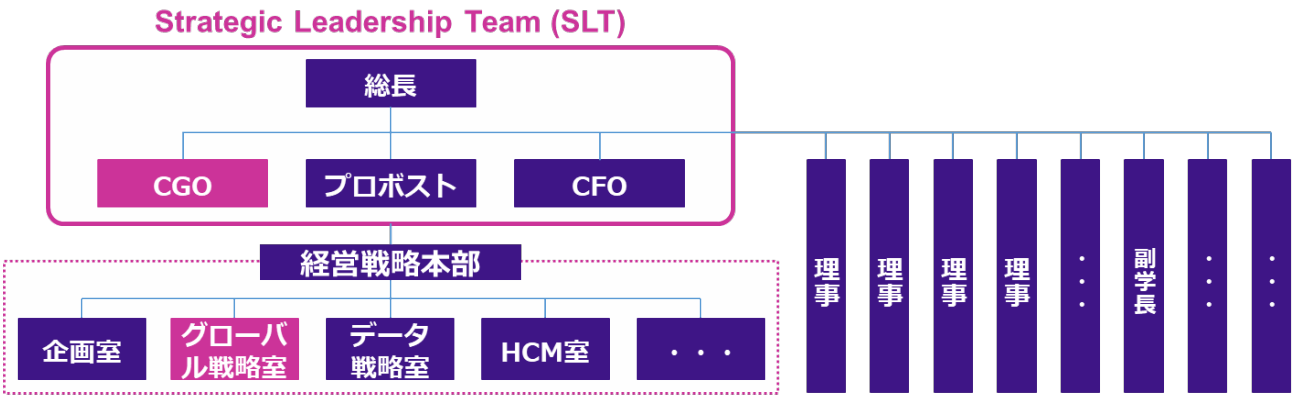
- 多層的・発展的なカリキュラムによる「国際共修科目」を、学部初年次から全学部生が履修可能とする。これにより、海外に対する興味・関心の向上と国際対応能力が育成され、海外留学者数の拡充に大きく寄与する。
- 海外留学経験者、東北大学グローバルリーダー認定を受けた学生等で組織される団体による「学生主催の国際交流イベント」を活性化することで、留学に行きたい層の拡充、国際交流の日常化による国際共修キャンパスの深化を図る。
- 国際共修授業の中に海外現地派遣プログラムを取り込んだ「モジュール化された国際共修授業」を開発・拡充する。15回の授業をモジュール化し最適な相手と共創することで、より広くより深い学習効果が得られる。
- オンライン留学や国際共修を組み合わせた「ブレンデッド国際教育」により、現地派遣期間を短期化したプログラムを開発するなど、カリキュラムの都合により留学困難な学生や、学部・研究科の特色に応じた留学メニューを提供する。
- 「海外体験プログラム」や「学生主催の国際交流イベント」にオープンバッジを発行し、学修成果の可視化を図る。

③外国人留学生の受入れ・定着のための取組

- 日本人学生と外国人留学生が徹底した国際共修に浸る学士課程ゲートウェイカレッジを開設する。また、大学院レベルでの国際学位コース・国際共同大学院プログラムを本学の強みのある研究分野・国際共同研究と連携させ、さらに発展させることで、優秀な外国人留学生の獲得に繋がる。
- 外国人学生の評価が高い社会共創型国際共修科目の増設、全学交換留学プログラム学生への国際共修科目の必修化により、教育の国際化と本学のプレゼンスが向上し、本学へ学位留学したい外国人留学生の拡充に繋がる。
- 全学交換留学プログラム学生への国際共修科目の必修化により、プログラムの魅力が増し、参加者数の増加が可能となる。また、プログラム修了者に「オープンバッジ」を発行し国際通用性と学修成果の可視化を図る。
- 「東北大学国際功労賞」「同窓会アウォード」を継続開催し、海外で活躍する同窓生等との交流活性化と同窓生等の掘り起しを継続的に行う。
- 国際サポートセンターによるワンストップ支援体制を地元自治体と協働した取組に発展させることにより、外国人留学生だけでなく外国人教員も研究に専念できる環境を整備する。また、「留学生ヘルプデスク」の複数キャンパスでの展開、多文化共修に関する学生主催の課外活動を充実させることにより、国際共修キャンパスの深化を図る。
- 「東北イノベーション人材育成コンソーシアム（DATEntre）」を継続実施し、外国人留学生の国内企業への就職を支援するとともに、「東北高度外国人材活躍推進コンソーシアム」と連携し、東北全域の受入れ企業を増加させる。さらに、2026年度までに「留学生就職促進教育プログラム認定制度」による認定を受ける。

④国際化のための体制整備・特徴

本事業の推進にあたって本学が進めてきた「国際共修キャンパス」の全学的展開と、国際卓越研究大学として掲げる「全方位の国際化」の体制強化計画が相乗的に機能している。大学の国際化に関するあらゆる施策について 、包括的国際化担当役員（CGO）によるトップマネジメントのもと、抜本的国際化を継続的に推進する体制を整備している。包括的国際化を推進することを目的として、2025年4月にグローバル戦略室を設置した。グローバル戦略室は14 名の室員と、19 名の事務職員で構成され、関係会議を英語で実施しており、事務職員も含めたほとんどの職員が英語でのコミュニケーションを行うことができている。CGOの下で、学内標識の多言語化、公式会議文書の日英二言語標記を進めるなど、包括的国際化に向けた取組みを推進している。



⑤国内地域との連携について（タイプⅠ：地域等連携型のみ）

本学のこれまでの実績と成果をさらに発展させた「包括的な国際共修モデル」を他大学や地域にグッドプラクティスとして示し、それを還元することで、仙台圏・東北地方の国際化を牽引する。既に、留学生就職促進プログラムにおいて、仙台圏の7教育機関と宮城県・仙台市等の地方自治体・公共団体を巻き込んだ取組で成果をあげ、事業終了後もコンソーシアムを継続し、留学生、地元企業、卒業生をつなげる就職支援イベントを開催するなど、社会へのインパクトを意識した事業を推進している。本事業においても、仙台圏・東北地域の大学や、人的・物的資源やノウハウの獲得に課題を抱える地域社会の国際化に資することを本学の使命と位置づけ、仙台圏・東北地域をはじめとする他大学に国際共修の横展開を図る。

【5.多文化共修科目数・参加学生数の設定目標】

科目数等	令和5年度（実績値）	令和8年度（目標値）	令和11年度（目標値）
正課科目数	8,577科目	8,500科目	8,500科目
うち、多文化共修科目数（学士、博士前期、博士後期） ①	78科目	88科目	113科目
【①の内訳】			
・学士課程	66科目	75科目	100科目
・博士前期課程	9科目	10科目	10科目
・博士後期課程	3科目	3科目	3科目

参加学生数	令和5年度（実績値）	令和8年度（目標値）	令和11年度（目標値）
①の参加学生数（Ａ：Ｂ＋Ｃ）	1,175人	2,850人	3,150人
うち、日本人学生数（Ｂ）	872人	2,400人	2,350人
うち、外国人学生数（Ｃ）	303人	450人	800人
【Aの内訳】			
・学士課程	1,107人	2,750人	3,050人
・博士前期課程	61人	90人	90人
・博士後期課程	7人	10人	10人

学生総数	令和5年度（実績値）	令和8年度（目標値）	令和11年度（目標値）
学生総数（Ｄ：Ｅ＋Ｆ）	20,031人	20,000人	20,000人
日本人学生数（Ｅ）	16,621人	16,100人	15,230人
外国人学生数（Ｆ）	3,410人	3,900人	4,770人

割合 （多文化共修科目に参加する学生割合）	令和5年度（実績値）	令和8年度（目標値）	令和11年度（目標値）
参加学生数（Ａ）／ 学生総数（Ｄ）	5.9%	14.3%	15.8%
うち、日本人参加学生数（Ｂ）／ 日本人学生数（Ｅ）	5.2%	14.9%	15.4%
うち、外国人参加学生数（Ｃ）／ 外国人学生数（Ｆ）	8.9%	11.5%	16.8%

●計画内容（事業期間全体のもの）

- 学生の国際経験・学術的関心・習熟度に応じて、導入教育から専門的な内容へと発展する国際共修カリキュラムを提供し、学生の学びと成長を支援する。大学入学時までの国際経験が限定的な本学学生に応じた国際共修体験を段階的に提供する。
- 導入教育として位置付けるTier 1では、学部初年次の必修科目「学問論」に多文化共修セミナー、外国人留学生との英語による国際共修活動、成果報告をセットにした多文化共修モジュールを導入し、多文化共修リテラシーを育成する。2024年度より段階的に準備を進め、2026年度までに全学部初年次学生に多文化共修モジュールを提供する。
- Tier 2として、具体的な社会課題に取り組む国際共修科目を、6つの学際的クラスターにて提供する。「インターカルチュラル・スタディーズ」に加え、よりテーマ性の強い、「グリーン未来社会創造」、「グローバル・リーダーシップ」、「科学技術イノベーション」、「グローバル・シティズンシップ」、「グローカル課題解決」を設け、学生が自身の関心や習熟度に合わせた国際共修活動に挑めるようカリキュラムを設計する。
- 全クラスターにおいて学外ステークホルダーと連携し、国際共修科目を現在の66科目・履修者1,107人から、事業最終年度には全学部生の履修を可能とする規模まで拡大する。
- グローバルラーニングセンターに国際共修カリキュラム・コーディネータを配置し、Tier1科目の多文化共修モジュール及びTier2の社会共創型国際共修科目のカリキュラム構築・運営を行う。
- 2021年度より国立大学5大学と実施している国際共修科目の単位互換交流（ICLプロジェクト）について、コンテンツを充実させるとともに、本事業採択大学との連携を図り、参加学生数・科目数を増加させる。

大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業
東北大学（タイプⅠ） 取組概要

2. 取組内容の進捗状況（令和６（2024）年度）

【1.大学の国際化に向けた取組の進捗状況】

- 本事業の推進にあたって本学が進めてきた「国際共修キャンパス」の全学的展開と国際卓越研究大学として掲げる「全方位の国際化」の体制強化計画が相乗的に機能している。特に、国際化施策を統括的に推進する包括的国際化担当役員（CGO）の2025年4月の着任は全学的な体制強化に向けた追い風となる。
- 2025年4月に包括的国際化を推進することを目的として、グローバル戦略室を設置した。CGOの下で、学内標識の多言語化、公式会議文書の日英二言語標記を進めるなど、包括的国際化に向けた取組みを推進している。
- 仙台市との連携の下、地域社会の活性化や人材育成に寄与する「包括連携協定」を締結し、本学留学生が利用可能な相談窓口「仙台市×東北大学 ウェルカムデスク」を青葉区役所に設置し、区役所の手続き等の適応支援を充実させた。地域との共創を通じて、留学生の生活支援体制の整備と多文化共生の推進を実現した。

＜仙台市×東北大学 ウェルカムデスク＞

【2.多文化共修に係る取組の進捗状況】

国際共修活動の必修化（Tier 1）：学部初年次における国際共修活動の必修化に向けた制度設計を行い、キャンパス内の対面交流と、海外協定校の日本語学習者とのオンライン交流という二形態を構築し、2025年度前期のパイロット実施に向けて準備を行った。これにより学内外の協力体制が具体化され、グローバルに展開可能な国際共修プログラムの実装基盤が形成された。

学際的なクラスター別国際共修科目（Tier 2）：共創パートナーおよび教員向けに、授業開発の検討項目やスケジュール、好事例をまとめた「社会共創型国際共修ガイドブック」を作成し、これを活用し、2025年度の授業協力に向けた準備を進めた。これにより社会共創型国際共修科目の体系的開発が進展し、地域・社会との接続が強化された。

教育環境の整備：グループワークやディスカッションに適したICLアカデミックラウンジ（2フロア、合計200名収容）を、主に全学教育が行われるキャンパスに整備し、国際共修に取り組むためのオープンでボーダレスな教育空間が新たに確保された。

モビリティ活動との接続強化：短期海外研修の候補者選定において、国際共修活動の経験を審査加点項目として設定するとともに、一部のプログラムでは、派遣先大学の学生との国際共修活動を事前研修に組み込んだ。国際共修経験が国際モビリティの価値として認識され、派遣プログラムとの有機的接続に向け前進した。

社会共創パートナーの開拓：2025年1月、公益社団法人仙台ユネスコ協会と、共創型国際共修を実施することを通じて社会課題に積極的に取り組み社会価値を創造する人材を育成すること及び国際交流の推進と双方の発展に寄与することを目的として、共創型国際共修の実施に関する覚書を締結した。

＜ICLアカデミックラウンジでの
国際共修活動の様子＞

＜仙台ユネスコ協会との
覚書締結式の様子＞

【3.成果指標】

・多文化共修科目数・参加学生数

本事業が採択された2024年度は、採択前と同数の78科目の国際共修授業を実施しており、2025年度には25科目を新規開講する予定。2025年度は、学外ステークホルダーとの連携による社会共創型国際共修の開講に向けて準備を進め、地域課題の分析や課題解決策の考案にとどまらず、実践・実行まで踏み込んだ内容としている。

多文化共修科目数・参加学生数

	2023年度（実績値）	2024年度（実績値）	2029年度（目標値）
多文化共修科目数	78科目	78科目	113科目
	2023年度（実績値）	2024年度（実績値）	2029年度（目標値）
参加学生数	1,175人	1,135人	3,150人

【4.自由記述欄】

- 日本初となる「国際共修ルーブリック」を開発し、学修成果の検証による質保証のみならず、国際共修カリキュラムや授業設計などにも広く活用することを検討しFDを通して学内に広めるプロジェクトを立ち上げた。国際共修ルーブリックは本学HPでも公開しており学外からも問い合わせを受けるなど高い評価を得ている。
- Tier 1の制度設計およびパイロット活動の準備、Tier 2の学外共創パートナーの開拓と新規授業の設計、さらにICLアカデミックラウンジの開設や教職員会議の運営見直しを進め、国際共修を全学的に展開するための実施体制と教育環境を包括的に整備した。
- 短期海外研修参加者の選考において国際共修経験を審査加点項目に設定するなど、国際共修活動とモビリティ活動との接続を意図的に設計し、国際経験を学修プロセスとして位置づける仕組みを構築した。
- 2025年1月に開催したキックオフ・ワークショップには200名を超える学内外の関係者が参加した。本学が蓄積してきた国際共修教育・研究の知見と成果を広く発信するとともに教育の質向上と組織的な実践力の強化に寄与した。

＜キックオフ・ワークショップの様子＞